

学校法人二戸学園
令和元年度事業計画

I. 学校法人二戸学園

学校法人二戸学園（以下「法人」という。）が、適正・適切に運営され社会の負託に応えるよう、法人のガバナンス機能を高めていく。また、法人は、人々の生活と健康を高め地域社会に貢献することを建学の精神とする岩手保健医療大学（以下「本学」という。）並びに地域社会と積極的に連携・協力し地域の幼児教育及び保育に寄与することを目指す岩手保健医療大学附属幼稚園（以下「本園」という。）と密接に連携することにより、地域への貢献をより高めていくよう努める。

より具体的には、法人は、以下の事項に取り組んでいく。

- ① 理事会、評議員会での意思決定が円滑に実施されるよう、運営協議会の性格・位置付けを明確にし、連絡調整機関としての体制整備を構築する。
- ② 「大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査結果について（平成 29 年度、平成 30 年度実施）」（文部科学省）等の意見に対して、早急な改善に取り組む。
- ③ 引き続き、法人・本学・本園の管理運営関係に必要な規程及び細則の制定等、整備を推進する。
- ④ 引き続き、認証評価等に関する情報収集に努め、本学の自己点検評価の仕組みや内容の構築に向けて検討を進める。
- ⑤ 教職員の資質の向上のため、FD^{*1}及びSD^{*2}について、年次計画を策定し、段階的に充実していく。
- ⑥ 引き続き、防災危機管理体制の整備と充実に努める。

上記の取り組みを着実に推進するとともに、「学校法人制度の改善方策について」（文部科学省学校法人制度改善検討小委員会）において提言されている「自律的なガバナンスの改善・強化、情報公開の推進、経営強化等」に基づき、制度の見直しを含めて検討し、取り組みを進める。

※1 Faculty Development (FD) とは、教員の教育能力を高めていくため授業改革等、教員が自ら行う組織的な取り組み（研修、講演会等）。

※2 Staff Development (SD) とは、大学の管理運営、教育や研究支援等の質の向上を図るため、事務系職員を対象とした職能開発のための組織的な取り組み（研修、講演会等）。

II. 岩手保健医療大学

建学の精神

「人々の生活と健康を高め／地域社会に貢献する／ケア・スピリットを備えた保健医療人」

本学は、「建学の精神」が謳うような保健医療人を育て、地域に送り出すことを目指し、4年制の看護系大学として、平成29年4月の開学以来、活動をしてきた。これまでの2年間は、建学の精神を具現化するための基本的な体制作りに注力してきたが、3年目を迎える今年度は、これらの実績を踏まえつつ、本学完成後の持続的な発展を目指し、その方向性に沿った教育・研究・地域貢献のあり方を検証し、さらなる実績を積むことに努める。

具体的には、次の5項目を年次目標とする。

- ① これまでの2年間の実績を踏まえ、新たに就任する教員を加えた教育組織の充実により、全教員が本学の教育理念の基に、学生の学力について情報を共有し、学生個々の学修成果を高めるような教育のあり方について共同で検討・実施する。また、学生を支援するための教職員の適正配置や協働体制の構築に取り組む。
- ② 本学独自の共同研究費に加え、外部の競争的資金を獲得して研究成果をあげていくとともに、引き続き、そのための研究環境の充実に取り組む。
- ③ 本学では、看護の専門領域毎に経験豊富な教員を擁していることや地理的利便性が高いことを積極的に活用し、関係団体や地域医療機関等との連携・交流、研究成果の還元など、人的・物的資源を活用した地域社会への貢献を引き続き推進する。
- ④ 志願者・入学者確保のための効果的な方策等を検討・実行していく。また、質の高い教育を実施するため、学修環境を引き続き整備していく。
- ⑤ 完成後の将来展望をより具体的に検討し、これらの実現に向けて準備を進める。

1. 教育

- ① 設置の趣旨に掲げたカリキュラムの適正な実施及び充実
 - ・ 学生のこれまでの学修状況を検証し、これらの結果を反映したカリキュラム改善・見直しについて、教学委員会を中心に検討を進める。
 - ・ カリキュラムに沿った授業展開を着実に実施するとともに、演習や実習指導のさらなる充実に努める。(実習前ガイダンスの充実、実習指導に関するFDの開催、全体反省会等)

- ・ フレッシュマン合宿、サマーキャンプ等、看護職としての意識やコミュニケーション力を高めることを目的とした 1・2 年次の課外学習をさらに充実していく。
- ・ より良い実習を目指して、開学後に新たに 13 の実習施設を開拓してきた。これに加え、来年度から始まる保健師課程の実習を円滑に進めるため、実習に必要な保健所や市町村の関連部署等の実習先の開拓に努める。
- ・ 引き続き、実習指導者会議を開催して実習施設とのより密接な連携を図り、今年度の実績を基に次年度以降の実習がより円滑で充実したものとなるよう努める。
(実習前打合せ会、実習後の検証会議の開催、実習施設間の意見交換会の開催等)
- ・ 学生の授業評価に基づき、教育内容、方法等について検討・改善し、教育の質の充実に努める。
(評価項目の検証・見直し、各教員の授業改善計画の公表等)

② 学生の支援活動の充実

- ・ 新たにキャリアアドバイザー（3 年生担任）を配置するなど、アドバイザー制度をさらに充実させ、学生の生活指導体制、キャリア支援体制のさらなる強化を図る。
- ・ 国家試験対策及びキャリア形成支援のため、関連する情報の収集とさまざまな方策を検討し、実施していく。
(模擬試験の実施及び結果に基づく教育内容・指導方法の改善等)
- ・ 卒業後の進路指導の充実のため、学務課とキャリアアドバイザーが密接に連携したキャリア支援体制を整える。
- ・ 単位取得が困難な学生に対し、個別指導及びグループ学修指導をより一層強化していく。
(学修進度に応じた適時の面接指導、教員間の密接な連携によるきめ細かな面接指導や学修支援等)
- ・ 留年生、休学生に対し、保護者の十分な理解を得ながら、きめ細かな学修・生活支援を行っていく。
(関係教員の連帯した対応の実施等)
- ・ 蔵書の質・量ともに充実を図り、学生の学修支援を継続的に行う。また、学生にとって魅力ある展示などを企画し、利用促進を図っていく。
- ・ 新入生歓迎行事、大学祭、さんさ踊りへの参加等、学生の自治活動や自主的活動に対して、適切なサポートを行っていく。

③ 教員の資質向上

- ・ 3 学年が揃い、実習を含めてカリキュラムが過密になり、教員の負担も高まってくるが、教員間の協働・連携を密にすることにより、教員の資質の向上のための時間を確保する方法等を構築する。
- ・ 教員の資質向上を図るための F D について、現状分析に基づいた年間計画を策定し、実施する。

2. 研究

① 研究活動の活性化

- ・ 共同研究費を活用した平成 29 年度採択の 3 つのプロジェクト研究（下記のとおり）を引き続き推進するとともに、今年度着任の教員も含めた新たな共同研究の推進を図り、教員の研究意欲と研究水準の向上に努める。

ア) 岩手県内の看護学生と看護職者の職業的アイデンティティと地域志向の実態調査

イ) 看護大学生の「ケア・スピリット」その変化

ウ) 本学におけるタブレット端末を用いた反転授業導入に向けての基礎研究

② 競争的資金の獲得

- ・ 科研費審査において参照されるリサーチマップに全教員が業績をリアルタイムで掲載することを周知・徹底し、教育研究費補助金（以下「科研費」という。）の応募率・採択率の向上に努める。
- ・ 科研費以外の外部に関する情報についても広く収集・提供することにより、研究資金の拡充に努め、研究活動の活性化を図る。

③ 研究環境の整備

- ・ 本学教員の教育・研究能力の維持向上のため、若手教員に対する研究支援対策として、研究委員会による講習会の開催及び教授等による個別指導の充実を引き続き図っていく。
- ・ 学会、研修会及び関連機関等の研究資金情報等を迅速に確認・共有できるよう、情報提供のシステム化を推進する。

（研究資金情報の教授会等での提示・共有等）

3. 地域連携・貢献

① 地域に開かれた大学創り

- ・ 平成 30 年度から実施している地域住民に対する図書館開放について、さらなる利用促進を図るため、広報活動に努める。
- ・ 引き続き、地域交流室の活用を促進するため、地域への開放事業、学長懇話会、研究会等を企画・実施する。
- ・ 一般向け・専門家向けの公開講座や出前講座など、地域のニーズに応じた活動を展開し、参加者の拡大化と多様化を図っていく。

- ・ 自治体や関係団体が開催する研修会等に、看護に関する教育・研究経験が豊富な教員を講師として積極的に派遣し、地域貢献に努める。
- ② 高等学校等及び実習関連施設との連携
- ・ 高等学校からの本学の見学者受入れを促進するとともに、出前授業、大学説明会等、高大連携に向けた仕組作りを進めていく。
 - ・ 岩手県青少年会館と連携し、早期から看護への関心を高めるため、中学生へのキャリア教育を実施する。
 - ・ 実習施設等と連携し、教員及び実習指導者の資質向上のために、交流会や研修会を企画・実施する。

4. 本学の管理・運営

① 大学機能の基盤強化

- ・ 大学のガバナンス機能を強化するため、教授会や各委員会の連携を密にするるとともに、教学サイドと事務サイドの連絡調整や情報共有を目的として開催している業務連絡会をさらに活性化させる。
- ・ 教学上の事柄を検証し、次のステップの基礎となる課題・目標を発見していくため自己点検評価委員会の活動をさらに活性化させる。また、機関認証評価受審を念頭に、法人自体の事項も含めて点検等を行う体制を整備する。
(年次報告書の充実化、認証評価対応のための資料の蓄積、教学上の課題の発見等)
- ・ 教員、事務職員がともに参加するFD・SDを合同で開催して知識・情報を共有することにより、それぞれの資質を高め、大学を機能的に運営できるよう努める。
- ・ 学年進行に合わせた情報設備の基盤整備を進め、学修環境のより一層の向上に努める。
(情報処理室の整備、情報基盤の保守整備等)
- ・ 設置計画に基づいた設備・備品等の整備を進めるとともに、より充実した教育と学生生活充実のための設備等の整備に努める。

② 志願者と入学者の確保

- ・ 成績の優秀な学生を対象に志願理由・動機等の聴き取り調査を行うなど、これまでの志願状況を分析し、これらの結果に基づいた重点的な広報活動地域の選定や訪問高校の重点化を図る。
(推薦入学者の出身高校やA日程で優秀な成績を収めた近県の学生の出身高校を重点的に訪問)
- ・ 看護系大学志望の受験者の実態（少子化等による減少）とそれに対する有効な

対応策について、様々な方法で情報収集し、志願者・入学者確保のための方策を立てて実施する。

- ・ 大学ガイダンス、HP、新聞、TV、チラシ、ポスター等各種媒体を活用した効果的な広報活動を展開し、大学の知名度を上げていく。
(オープンキャンパスや推薦入試前の重点的広報)
- ・ より多くの学生確保のため、一般入試C日程を新たに設けるほか、学生納付金の見直しなどの検討を行う。

5. 将来展望の検討

- ・ 完成年度後の将来展望を見据え、教授会と各委員会が連携して重要な課題を総合的に検討する。
- ・ より優秀な学生の確保と在学生の学修意欲の向上のため、優秀学生への授業料免除等（特待生制度、奨学金制度）について検討を行う。
- ・ 完成年度後の経常費等補助金の確保を見据え、特別補助の獲得のため、その要件を満たすべく特色ある教育研究活動を推進していく。
- ・ 専門領域、年齢構成に留意しつつ、完成年度（2021年4月）後の教員組織体制を整えるための準備を推進する。
- ・ 学部完成後の2021年4月に向け、地域の実情や地域の将来を見据えた大学院設置の検討を進める。

III. 岩手保健医療大学附属幼稚園

2年目を迎える幼稚園型認定こども園としては、その充実に向けた方策を検討し、実施していく。

1. 園児の確保

- ① 園児の確保のため、以下のような広報活動の充実・強化を図っていく。
 - ・ 個人情報に留意しながら、HPやSNSの充実を図り、園児の状況を外部に発信していく。
 - ・ 「開かれたこども園」を目指して、行事の際などに園内・園庭を一般開放し、その模様を広報活動に取り入れる。
 - ・ 町内会等との交流を企画し、地域社会に根ざした園づくりに努める。
 - ・ 保護者が集まる二戸市総合福祉センターや子育て支援センターに、本園の行事の様子や子育て情報を掲載したフリーペーパーを作成し、掲示、配布等の検討を進める。

2. 幼児教育及び保育

- ① 本園と本学とが連携・協力し、地域社会の幼児教育及び保育に寄与することを旨とした活動を推進する。
- ② 今年度も本学と連携して、二戸市において「保護者と保育士に向けた子育て講座」等を企画し、実行する。

3. 施設の拡充等

幼稚園（二戸市堀野字東側）については、さらなる園児の獲得のため、一体的な幼稚園施設として、保育機能施設の敷地（二戸市堀野字馬場）に、新たな施設を併設する方向で関係者と協議を進めていく。

（以 上）